

様式 F-7-1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成23年度）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C) 4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度
5. 課題番号

2	3	5	3	0	4	5	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題 地域再生プロジェクトの本格的スタートを促進するための調査研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 2 1 7 4 0 9	テライシ マサヒデ 寺石 雅英	キャリア教育センター	教授

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

(1) 全国各地で行われてきた地域再生プロジェクトへの聞き取り調査ならびに資料調査によって、地域再生プロジェクトがどのような経緯をたどっていかなる段階まで到達したのかを把握することで、大部分のプロジェクトが、検討・計画段階までは順調に進行したもの、実行段階にまで至らずそこで立ち往生したり、実行段階に移行しても本格的な実行段階に入る前の助走期間のうちにプロジェクトが自然消滅してしまっていることを明らかにした。

(2) 本研究プロジェクトでは、地域再生プロジェクトに立ちはだかる障害を地域再生版“The Valley of Death”と名付けたが、この“The Valley of Death”がどのような要因によって生み出されるのかを、同じく全国各地への聞き取り調査ならびに資料調査によって明らかにした。当初より、①地域再生プレーヤーのモチベーション欠如、②活動の一体性・組織性の欠如、③理詰めの計画によって最善の道を追求する思考、④官の主導や官への依存を期待する思考、⑤地域外からの影響力を極力排除しようとする思考、の5つの要因が主要因となっているのではないかと仮説を立てていたが、今回の調査によって、その仮説がほぼ間違いないことが検証された。また同時に、それぞれがどのようなメカニズムで地域再生版“The Valley of Death”を導くのかについても分析した。

(3) 上記の要因やメカニズムを克服するためには、どのような条件を備えた仕組みが必要となるのかを検討し、(a) リスクとリターンを共有を実現させる仕組み、(b) 数打ちゃ当たる型思考を実現する仕組み、(c) 民間のリスク資本を大量に調達できる仕組み、(d) 地域再生プロジェクトを一元的にコントロールできる仕組みなどが有効に性を発揮する可能性が高いとの考察結果に至った。